

Contents

- 1 リコーグループについて
- 3 トップインタビュー
- 7 決算レポート
- 9 サステナブルな企業活動

11 ニュースファイル

- ▶衣類向け印刷強化のため、
米国アナジェット社を買収
- ▶立体複製画制作技術を開発
- ▶さまざまなシーンで活躍する
カメラを発売
- ▶リファクス600Sが「いしずえでんきの礎」に選定

13 株主様

インフォメーション

裏表紙 株主メモ、
INFORMATION

リコー グループに ついて

おかげさまでリコーは創業80周年を迎えました。

リコーグループは、約200の国と地域で、事業を展開しています。

人と情報のかかわりの中で常に新しい価値を生み出す製品—

オフィス向け画像機器、プロダクションプリンター、サプライ製品、デジタルカメラ、

またサーマルメディア、半導体、FAカメラなど産業用製品—

さらにマネージド・ドキュメント・サービス(MDS)、ITサービスを含むさまざまなサービス事業や

ソリューションといった幅広い分野でビジネスを行っています。

高い技術力に加え、リコーグループの際立った顧客接点力や

持続可能社会の実現への積極的な取り組みが高い評価をいただいています。

数字で見る リコー

連結売上高

2兆2,090億円
(2016年3月期)

事業エリア

全世界
約**200**の国と地域
(2016年3月31日現在)

A3レーザー 複合機/コピー機

世界シェア**1位***1
(2015年出荷台数)

2015年度のレビュー

2015年

4月

- 科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞
- 新入社員が南三陸町で復興支援

5月

- 柔軟性と高出力を両立する「発電ゴム」の開発

6月

- インドネシアに熱転写リボン加工・販売の新会社設立

7月

- 東欧地域のオフィス機器販売代理店を買収
- 中国で再生複合機ビジネスを開始

8月

- メキシコで森林生態系保全プロジェクトを開始
- 「Dow Jones Sustainability Indices」構成銘柄に3年連続採用

9月

- RICOH Future Houseオープン



社会的責任投資
インデックス^{※2}

13年連続採用
(2015年12月現在)

国内外特許
保有権利数

48,312件
(2015年3月31日現在)

※1 単機能コピー機を含む
 出典：IDC's Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker, 2016 Q1
 ※2 FTSE4Good Index Series





三浦社長に聞く

第18次中期経営計画の進捗と 2020年とその先を見据えた変革

代表取締役 社長執行役員・CEO

三浦 善司



事業別にみた2015年度の振り返りを教えてください。

画像&ソリューション分野では、お客様に新しい価値を提供するための施策を展開しました。お客様の困り事や業務プロセスを深く理解し、お客様の売上拡大・顧客満足度向上に繋がるソリューションを提供するために業種業務別の販売体制に変更しました。また、Impromat社のチェコおよびスロバキアの販売代理店2社を買収し東欧地域の販売体制を整えるなど、競争力・収益力の強化を目指した施策を展開しました。オフィスイメージングでは全世界でカラーMFPの販売を拡大しました。その結

果、A3複合機のマーケットシェアは全世界で首位*となりました。プロダクションプリンティングでは、カラーカットシート機 RICOH Pro C9110/C9100、カラーインクジェット連帳機 RICOH Pro VC60000などの製品ラインナップが整い、販売が好調でした。ネットワークシステムソリューションでは、特に海外においてITサービスおよび遠隔テレビ会議システムやプロジェクター等のビジュアルコミュニケーションの売り上げが伸びました。

産業分野では、産業用インクジェット事業の強化・拡

大を進めました。株式会社日立ハイテクファインシステムズとの協業により、産業用インクジェットプリントシステムの製造・販売における市場参入の準備が整いました。また、服飾品生地に直接印刷できるプリンターの製造販売会社である米国Anajetを買収し、大手衣料製造業や印刷会社、アパレル店舗などのお客様に新たな価値を提供していきます。 **詳細 P11**

その他分野では、カメラ事業において、様々なシーンで使用できるリコーならではのラインナップを強化しており、35ミリフルサイズデジタル一眼レフカメラ「PENTAX K-1」 **詳細 P12** 等を発売しました。さらに、全天球カメラ「RICOH THETA S」は連続撮影時間や画質の向上を実現し、お客様にご好評をいただいております。新たな事業では、横河電機株式会社から脳磁計事業を譲り受け、ヘルスケア事業へ参入しました。

このように、積極的な事業展開に加え、資産見直しなどを含む構造改革を遂行することで経費を改善し、2015年度の実績は右記の結果となりました。

*IDC's Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2016Q1, A3レーザーMFP(単機能コピー機含む)



RICOH Pro VC60000

■ 2015年度実績

	2015年度実績
売上高	22,090億円(前年比 2.7%増)
営業利益	1,022億円(前年比11.6%減)
営業利益率	4.6%
ROE	5.8%



2016年度の具体的な活動施策と財務目標を教えてください。

中長期の事業戦略として「基盤事業収益力の強化と成長」、「新たな事業の柱の構築による成長」の二つの方針を掲げています。プリンティング市場全体をみると著しい成長が見込めない中で、「基盤事業収益力の強化と成長」を進め、業種業務別アプローチを強化してお客様への新しい価値提供を加速していきます。また、市場の成長が期待できるサービス事業や新興国への投資を積極的に行います。さらに、「新たな事業の柱の構築による成長」に向け、インクジェット技術を核とした産業印刷の領域に積極的な投資を行い、成長を加速します。

リコーグループが将来に亘って揺るぎない企業であり続けるために、今年度は未来への成長の礎を築く1年間と位置付けております。同時に開発・生産・販売・本社における業務プロセスの効率化を推し進めます。2016年度の財務目標は為替影響などの事業環境を鑑み、売上高2兆1,700億円、営業利益770億円といたしました。

■ 2016年度の目標値

	2016年度目標
売上高	21,700億円
営業利益	770億円
営業利益率	3.5%
ROE	4.0%

1ドル=110円、1ユーロ=125円





創業80周年を迎え、今後リコーグループの目指す未来の姿をどのように考えていますか？

私たちはお客様の課題解決に役立つ製品やサービスを提供し、おかげさまで創業80周年を迎えることができました。

創業80周年の記念事業の1つとして「リコー環境事業開発センター」を静岡県御殿場市に開所いたしました。「お客様と共に進化する環境経営」の実現に向けて、環境事業の創出・拡大を目指します。 [詳細 P9](#)

リコーグループは中長期の目指す姿を「お客様の期待を超えた、安心・快適・便利を提供し、ライフスタイルの変革を支援する環境にやさしい会社」と定めています。今後も「人を愛し・国を愛し・勤めを愛す」という創業の精神に基づいて社会に貢献してまいります。

これからもお客様に新しい価値を提供し続ける会社として、リコーは100周年を迎える2036年とその先の未来へと、成長に向けて挑戦し続けます。



資源循環を表したリアルコメットサークル
(リコー環境事業開発センター内)

4月よりガバナンス体制を大幅に見直しました

当社を取り巻く環境は急速に変化しており、新しい挑戦を続けることが将来的な成長につながると考えています。このたび、持続的な成長とさらなる企業価値の向上を目指し、ガバナンス体制を大幅に見直しました。

「新しい挑戦のための果敢な意思決定」と「透明性の高い経営監督」の強化を実施し、取締役会の過半数を非執行取締役としました。さらに従来 of 指名報酬委員会を指名委員会と報酬委員会とに分割し、各委員会の長を非執行取締役、委員の過半数を社外取締役としました。

売上高

国内は、衣料事業の売却影響等に伴いその他分野が減少したものの、ネットワークシステムソリューションの伸長等により画像&ソリューション分野が増加、また産業分野も増加したことにより、売上高は前年度に比べ0.3%増加しました。

海外は、カラーMFP機が伸長したことに加え、対米ドルでの円安や事業買収の影響が寄与し、前年度に比べ4.0%増加しました。

その結果、国内外合計の売上高は22,090億円と前年度に比べ2.7%の増加となりました。

営業利益、株主資本 当期純利益率(ROE)

売上高の増加、構造改革活動の成果はあったものの、競争激化の影響等による売上総利益の減少により、営業利益は1,022億円と前年度に比べ11.6%の減益となりました。

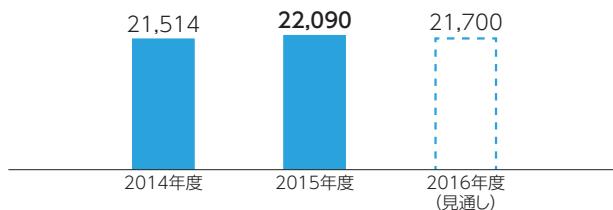
株主資本当期純利益率(ROE)も前年に比べ0.7ポイント低下し、5.8%となりました。

1株当たり配当金

期末配当金は17.5円とし、年間配当金は前年度と比べ1円増配の35円とさせていただく予定です。2017年3月期の配当金は、1株当たり10円の記念配当を実施し、普通配当と合わせて45円を予定しています。

● 売上高

(億円)



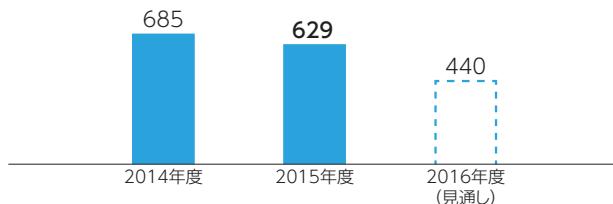
● 営業利益

(億円)



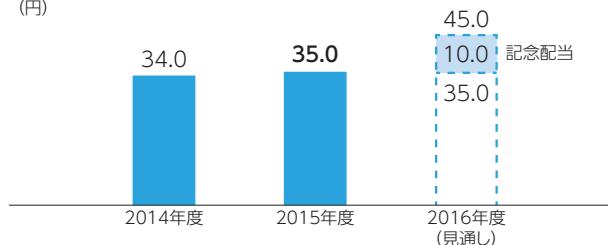
● 当期利益 (親会社の所有者に帰属)

(億円)



● 1株当たり配当金

(円)



*2015年度より一部のリース取引について総額表示から純額表示に変更しております。これに伴い2014年度の実績を遡及修正しております。

● 分野別売上高

売上高 構成比
対前年度伸び率

■ その他分野

1,090億円 5.0%

-6.8%

● 衣料事業の売却影響に加え、カメラ事業の売上高が前年度に比べ減少しました。

■ 産業分野

1,254億円 5.7%

+6.5%

● サーマル事業やインクジェット事業等の売上高が前年度に比べ増加しました。

■ 画像&ソリューション分野

19,745億円 89.3% +3.0%

■ ① オフィスイメージング

14,320億円 64.8% -0.5%

● 円安の影響に加え、MFPのカラー機が国内外ともに伸長したものの、市場環境の悪化や競争激化の影響等により、売上高が減少しました。

■ ② プロダクションプリンティング

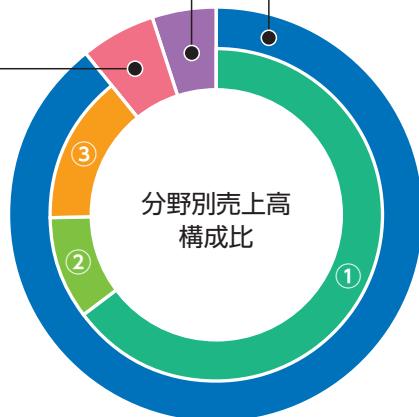
2,238億円 10.1% +16.6%

● カラーカットシート機が欧州を中心に国内外ともに好調に推移。併せて関連消耗品やサービス等も伸長し、売上高が増加しました。

■ ③ ネットワークシステムソリューション

3,186億円 14.4% +11.8%

● 国内においてPC買替需要減少の影響はありましたが、ソリューション商材が伸長するとともに、海外における買収効果が寄与し、売上高が増加しました。



● 地域別売上高

売上高 構成比
対前年度伸び率

■ その他

2,226億円 10.1%

+5.6%

■ 欧州・中東・アフリカ

5,310億円 24.0%

-0.3%

■ 日本

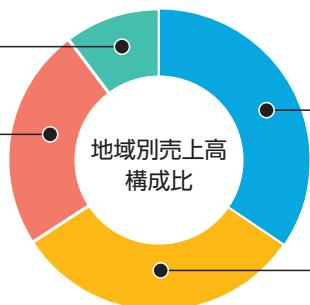
7,615億円 34.5%

+0.3%

■ 米州

6,937億円 31.4%

+7.0%



環境を基軸とした新規事業の創出

「リコー環境事業開発センター」を2016年4月15日に静岡県御殿場市に開所しました。

創業80周年の記念事業の1つとして設立した本センターは、昨年5月からすでに稼働を開始している「リユース・リサイクルセンター」と、このたび稼働する「環境技術の実証実験の場」、さらには、「環境活動に関する情報発信基地」の3つの機能を併せ持っています。このセンターで、これまでのリコーの事業領域にとらわれない、環境を基軸とした新規事業の創出・拡大を目指します。環境事業で、2020年度に1,000億円規模の売上を目標としています。



開所したリコー環境事業開発センター

●リユース・リサイクルセンター

昨年5月から業務を開始し、年間約2万台の複合機を再生しています。全国12カ所に分散していたOA機器のリユース・リサイクル機能は3拠点に統合され、本センターはその中心的な拠点です。これまで培ってきたリユース・リサイクル技術をさらに発展させ、対象とする製品・領域を拡充することで基盤事業を強化するとともに、リコーグループの環境事業の一翼を担っていきます。

●環境技術の実証実験の場

新規環境事業の創出に向けて、廃プラスチックや間伐材などの未利用資源からエネルギーを取り出す技術や、小さな水流から発電する技術の開発など、エネルギー循環にこだわった省資源および創エネルギーに関する実証実験を順次開始いたします。また、急速充放電が可能な新型二次電池で無人搬送車を稼働させる実験や次世代型栽培技術の研究など、先進技術による省エネルギーへの取り組みも推進します。

★本センターで取り組むテーマは下記のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.ricoh.com/release/2016/0415_1.html

●環境活動に関する情報発信基地

リコーグループの環境活動、環境に配慮した製品・サービス、そして新しい環境技術などに関する情報発信を行い、環境教育など地域社会に貢献する活動を積極的に展開していきます。

環境を基軸とした新規事業の創出

COP21のオフィシャルパートナーとして環境配慮型複合機によるソリューションを提供

2015年12月に195の国が新たな目標に合意し、「パリ協定」を採択した国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）のオフィシャルパートナーとして、環境に配慮し、セキュリティを確保した統合文書管理ソリューションを提供しました。

リコーが採用されたのは、ソリューションそのものの内容に加え、長年の環境保全活動への取り組みが高く評価されたことによるものです。このソリューション提供によりCOP21を支援することは、私たちリコーの地球環境問題に対するコミットメントを示すものでもであると認識しています。



リコーアジアパシフィック、「Singapore Creative CSR Awards 2016」で総合グランプリ

アジア・パシフィック地域の販売統括会社であるRicoh Asia Pacific Pte, Ltd. (リコーアジアパシフィック) は、「Singapore Creative CSR Awards 2016」で総合グランプリを受賞しました。シンガポールで毎年、国連世界環境デーの6月5日に行っている環境意識の啓発活動「Eco Action Day」の取り組みが高く評価されたものです。

リコーアジアパシフィックは、2007年にシンガポール環境審議会(SEC)とともに、最初の「Eco Action Day」の活動をシンガポールで開始し、以降毎年、活動を継続しています。2007年当時は18組織の参加だったものが、現在では、700以上の組織がこの運動に参加しています。10周年を迎える今年も、さまざまな活動を展開します。



2016年3月17日フェアモントシンガポールでの授賞式

外部からの評価

リコーグループの事業活動に対し、外部機関から高い評価をいただいております。

●RobecoSAM

世界的な社会的責任投資 (SRI) 評価会社であるスイスの RobecoSAMによるサステナビリティ格付けで、「シルバー」クラスに選定されました。(2016年1月)

RobecoSAMは毎年、世界の大手企業約3,000社を対象に「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業評価しています。

●Ethisphere

米国のシンクタンクThe Ethisphere Institutesが発表した「2016年世界で最も倫理的な企業(2016 World's Most Ethical Companies®)」に今回で7度目の選定を受けました。



ROBECOSAM
Sustainability Award
Silver Class 2016



●EcoVadis

CSR調査機関EcoVadisによるサステナビリティ調査において、前回の2014年に続き、最高ランクの「ゴールド」評価を取得しました。(2016年1月)



110カ国、150業種に及ぶサプライヤー企業を対象に、企業の方針、施策、実績について評価。リコーは、今回の調査において対象企業全体の中で上位5%以内となっています。

●CDP

持続可能な経済の実現を目指す国際NPO Carbon Disclosure Project (CDP) から、気候変動に関する情報開示に優れた企業としてClimate Disclosure Leadership Index (CDLI)に2年連続選定されました。



リコーグループでは、さまざまな取り組みを行っています。
ここではその主なものをご紹介します。

1 衣類向け印刷強化のため、米国アナジェット社を買収

リコーはこれまでインクジェット分野において、キーパーツである産業用インクジェットヘッドの開発、製造、販売、技術サポートを実施してまいりました。成長戦略として産業用インクジェット事業ではテキスタイルや装飾・加飾の分野を強化する方針です。その一環として、市場成長が見込まれるDirect to Garment (DTG) プリンター市場に参入するため、Tシャツなどの服飾品生地直接向刷するDTGプリンターの製造販売会社であるAnaJet (以下、アナジェット社) を買収しました。

アナジェット社は、DTGプリンターの開発、製造、販売およびサービス保守を手掛けており、アメリカを中心にDTG市場におけるトップメーカーの1社としての地位を築いています。また同社のプリンターのメインモデルにリコー製のインクジェットヘッドが搭載されています。



アナジェット社DTGプリンター

2 立体複製画制作技術を開発

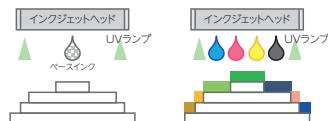
独自のインクジェット技術を応用して、立体複製画制作技術を開発しました。今年10月から開催される「デトロイト美術館展(東京展)」で販売予定の複製画にこの技術を提供いたします。

インクジェット技術に加え、画像処理技術、3Dプリント技術を応用することで、リコーは複製画を立体的に制作する技術を開発しました。従来の平面的な複製画と比較して、絵の具の盛り上がり、筆のタッチ、キャンバスの生地目など実際の絵画の凹凸を高精細に再現することができます。

さらにインクも、リコー独自のUV硬化インクを採用。光を照射することで瞬時に硬化するという特性を持ち、高い硬度と密着性を保ちながら延伸性にも優れており、印刷対象物の多様な形状に柔軟に適用します。

この度開発した技術を複製画用途だけでなく、建材、インテリア、住宅設備の装飾・加飾などの産業用途にも展開することで、インクジェット事業の拡大を図ってまいります。

■立体複製画の制作プロセスイメージ



特殊プリンターを用い、印刷と硬化を繰り返して積層させる。ベースインクで凹凸形状を形成した後、カラーインクで表面を着色する。

■リコー独自開発のインクジェットヘッドとインク



デトロイト美術館展で展示販売予定

リコーはデトロイト美術館展の東京展に特別協賛し、展覧会場で販売予定の複製画に立体複製画制作技術を提供いたします。ここでは複製画に直接触れて立体的な造形を感じていただくことができます。

デトロイト美術館展 ～大西洋を渡ったヨーロッパの名画たち～
<http://www.detroit2016.com/>

東京展(上野の森美術館)2016年10月7日(金)～2017年1月21日(土)

※この他にも豊田展、大阪展が開催されますが、複製画の販売は東京展のみで行われる予定です。

※株主優待として招待券抽選にご応募いただけます。詳細はP13へ

3 さまざまなシーンで活躍するカメラを発売

リコーグループはお客様の用途に合わせたさまざまなカメラを発売しております。

■ ペンタックス初の35ミリフルサイズデジタル一眼レフカメラ 「PENTAX K-1」

35ミリ判フィルムと同等サイズの大型CMOSイメージセンサーを搭載し、写真愛好家の作品づくりやプロフェッショナル用途にも対応するKシリーズ最高級機です。



■ 本格防水・耐衝撃ハイスペックアクションカメラ 「RICOH WG-M2」

高精細な4K動画撮影に対応した小型・軽量ボディに、優れた防水・耐衝撃性能を備え、超広角204°のワイドアングルで撮影できるハイスペックアクションカメラです。



4 リファクス600Sが「^{いしづ}でんきの礎」に選定



リファクス600S

1974年に発売したデジタルファクシミリ「リファクス600S」が、一般社団法人 電気学会 第9回「でんきの礎」として顕彰されました。

顕彰理由は、世界初の実用的国際間データ送受信を実現(A4サイズ1枚の送信時間を従来の6分から1分に短縮)し、ファクシミリ普及に大きく寄与したこと。ここで適用された符号化などのデジタル技術が、国際標準化へつなぐるとともに複写技術と融合し現在のコピー、プリンター、ファクス、スキャナー一体の複合機へと進化し、OA機器の発展とオフィス業務の革新的効率化に貢献したことによるものです。

電気技術の顕彰制度「でんきの礎」とは

「21世紀においても持続可能な社会」を考える上で、20世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を振り返り、その中でも特に価値のあるものを顕彰することによって、その功績をたたえるものです。これによって、その価値を広く世の中に周知し、多くの人々に電気技術のすばらしさ、おもしろさを知ってもらい、今後の電気技術の発展に寄与させることを目的としています。技術史的価値、社会的価値、学術的・教育的価値のいずれかを有し、約25年以上経過したものが選定されます。

● 配当金の考え方について

株主の皆様への利益還元にあたっては、連結配当性向を考慮しつつ安定的な配当を行うことを基本的な考え方としております。今回、配当金の考え方を変更し、今後は、連結配当性向30%から50%の範囲での安定的な増配ができるように努めてまいります。

上記方針に基づき、2016年度の配当金見通しは1株当たり35円といたしました。加えて、創業80周年記念として1株当たり10円の記念配当を実施し、合わせて1株当たり45円となる見通しです。

● 株主優待のご案内

2016年度の株主優待として以下のようにご案内させていただきます。【基準日：2016年3月末／9月末】

I 単元(100株)以上保有の全株主様にお送りするもの

優待品	3月末 (権利確定)		9月末 (権利確定)	
	100株以上1,000株未満	1,000株以上	100株以上1,000株未満	1,000株以上
壁掛けカレンダー			○	

発送時期：12月上旬から中旬(順次)

II 単元(100株)以上保有の株主様にご応募いただけるもの【抽選】

企画名	3月末(権利確定)		9月末(権利確定)	
	100株以上1,000株未満	1,000株以上	100株以上1,000株未満	1,000株以上
リコーフィル演奏会*1		○ (ペア250組500名様)		○ (ペア250組500名様)
市村自然塾見学会		○ (15名様)		○ (15名様)
ラグビー観戦チケット	○ (ペア500組1,000名様)			
デトロイト美術館展招待券		○ (ペア80組160名様)		
リコー特別観覧日へのご招待*2		○ (500組1,500名様) ※1枚3名様まで入場可		
日本科学未来館 常設展示招待券	○ (ペア1,000組2,000名様)			
カメラセミナー				○ (20名様)
「リコー関連・協賛イベント」グッズ				○ (抽選)

ご案内時期：

6月初旬【招集通知に同封】

12月初旬【RICOH REPORT冬号に同封】

*1：会場等の状況により、ご招待数が増減いたします。

*2：2016年10月21日(金)9:30～16:30の間、リコーの株主様およびリコーグループのおお客様に限ったご招待日として開館いたします。

III 全株主様へご案内するもの

●リコーイメージング(株)製品(カメラ等)やリコーエレメックス(株)製品(時計等)の優待販売

ご案内時期：株主総会決議通知(6月下旬)およびRICOH REPORT冬号(12月初旬)とともに年間2回ご案内いたします。



● 2015年度株主優待イベントのご報告

当社に対するご理解を深めていただくため、株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催いたしました。



第59回リコーフィル演奏会【抽選】

よかった **99.0%**

2016年2月27日、リコーフィル定期演奏会に456名の株主の皆様にお越しいただきました。株主の皆様をはじめとする来場者の皆様には、約2時間にわたる生オーケストラの演奏をお楽しみいただきました。

株主様のご感想

- 指揮者も演奏も素晴らしく、今後も期待している
- 一人ひとりが真剣に演奏する姿に感動し、企業の文化活動としても必要だと思う



カメラセミナーご招待【抽選】

よかった **100.0%**

2016年4月2日、13名の株主の皆様にご参加いただき、デジタル一眼レフカメラ「PENTAX K-S2」を使用し、カメラセミナーを開催しました。午前にはカメラの基本的な機能や使い方の説明を行い、午後から日比谷公園で撮影会を実施しました。

株主様のご感想

- 実際に一眼レフに触れ、説明してもらったことで、理解と興味が深まった
- もっとたくさんの人が参加できるような機会を増やしてほしい



上記の他、「市村自然塾見学会ご招待(抽選)」も実施いたしました。

※株主の皆様からいただきました数々の貴重なご意見を参考に、より良い優待イベントへと改善してまいります。

IRメール配信登録のご案内



株主の皆様へ決算情報やニュースリリース、その他のIR情報を電子メールでお知らせしております。(月1回程度)
ご希望の方は、当社IRサイトよりご登録の手続きをお願いいたします。

※本サービスは携帯電話メールには対応していません。



メール配信内容イメージ

ご登録方法

- 1 「リコー IR」で検索し、IRトップページへ

リコー IR

- 2 こちらの「登録・バックナンバー」ボタンよりご登録ください。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL(0120)782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社 の全国各支店で行っております。

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

INFORMATION

Webサイトのご案内 <http://jp.ricoh.com/>

当社では、最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。



今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、投資家の皆様に向けたさまざまな活動も行っています。以下は当社の今後のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いただけますようお願いいたします。

なお、予定は予告なく変更される場合がございます。



電子ブック版RICOH REPORT

1年に2回、株主の皆様のお手元にお届けしている「RICOH REPORT」をホームページ上に電子ブックで掲載しています。



株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号
TEL (03) 3777-8111



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

